

## 目的

### 1. 本調査の背景

#### ■グローバルな都市間競争の激化。都市を牽引する都心の再構築の必要性

グローバル化、少子高齢化社会の進展等、都市を取り巻く環境は大きく変化している。都市の国際競争が激化する中、大阪が競争力強化を図るためには、これらの環境変化に応じた都心の再構築が必要と言える。

#### ■大阪府市における「グランドデザイン・大阪」の策定。重点エリアとして掲げられる御堂筋

このような中、本年6月に大阪府市で策定した「グランドデザイン・大阪」においては2050年の大阪の将来像を示すとともに、象徴的なエリアの1つとして、御堂筋及び周辺地域を挙げている。

### 2. 御堂筋における現状

#### ■御堂筋エリアは現在も大阪一の業務集積地区。しかし近年、業務地としての相対的地位が低下。うめきたのオープンなどにより一層の低下が懸念

御堂筋は現在も大阪一の業務集積地区となっている。しかし、近年、大阪駅周辺地区、中之島地区等における開発の進捗により、その相対的地位は低下しつつある。

2012年の中之島におけるフェスティバルタワー、2013年のうめきたにおけるグランフロント大阪など、周辺エリアにおいて大型開発のオープンが進んでいる。このような中、御堂筋エリアについてはその相対的地位の一層の低下が懸念されており、エリアの再構築に向けた早急な対応が必要となっている。

### 3. 本調査について

#### ■『大阪都心の活性化の必要性』や『御堂筋の相対的地位の一層の低下の懸念』が高まっていることを踏まえ、今後の御堂筋の活性化の方向性を検討調査。

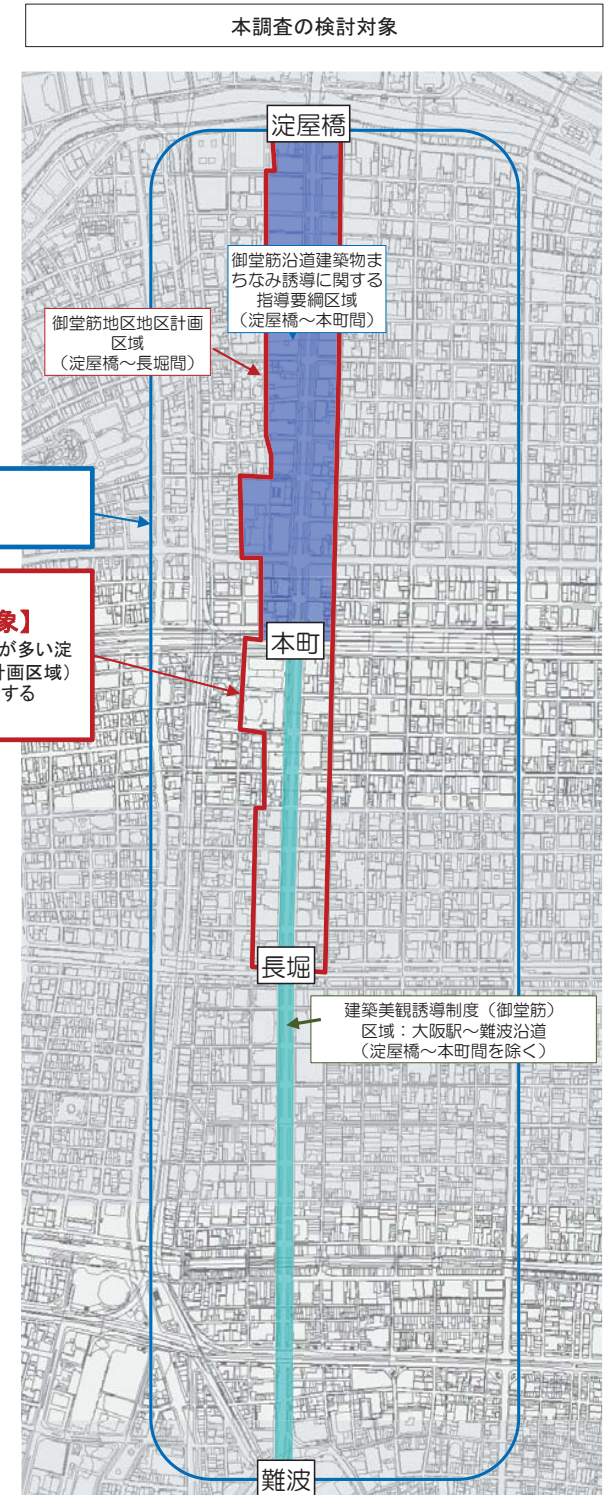
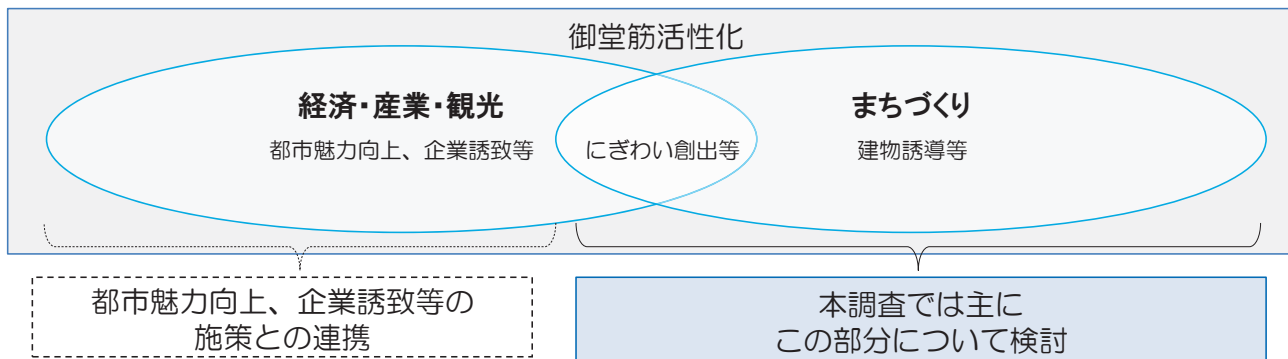
大阪都心の活性化の必要性や御堂筋の相対的地位の一層の低下の懸念が高まる中、大阪市都市計画審議会に専門部会を設置し、御堂筋エリアに関して、今後求められる役割や再構築の方向性(ビジョン等)を明らかにするとともに、その実現に向けた誘導方策について検討調査を行なうこととした。

#### ■本調査では御堂筋の活性化に関する「まちづくり」的な側面に焦点

御堂筋の活性化は企業誘致などの経済・産業・観光施策とまちづくりの施策を連携させて進めていく必要がある。本市においては、経済・産業の活性化に向け、2013年1月に「大阪の成長戦略」を策定するとともに、この4月からは府市が一体となって世界中から人、モノ、投資等を呼び込むために、経済戦略局を新設することとしている。都市計画審議会専門部会の本調査では、御堂筋の活性化に向けた今後の「まちづくり」の方向性や誘導方策を中心に検討を行い、経済・産業・観光施策との連携を十分に図り活性化施策を進めていくものである。

#### ■誘導方策については、『淀屋橋～長堀間』の沿道を対象

また本調査においては、今後のビジョンについてはエリア全体を対象とし、誘導方策については、現在、規制誘導が多く存在する『淀屋橋～長堀間』の『沿道』を対象とする。



## 大阪市都市計画審議会専門部会委員名簿

大阪市都市計画審議会委員	☆橋爪 紳也	大阪府立大学21世紀科学研究機構教授
	嘉名 光市	大阪市立大学大学院工学研究科准教授
	塚口 博司	立命館大学理工学部教授
	長町 志穂	京都造形芸術大学客員教授
大阪市都市計画審議会 専門委員	加藤 晃規	関西学院大学総合政策学部教授
	北 修爾	大阪商工会議所常議員
	櫻内 亮久	関西経済連合会理事
	佐藤 博之	大阪ビルディング協会会長 (☆:部会長)

## 検討経過

### ■ 大阪市都市計画審議会の予定

○平成24年10月10日 都市計画審議会  
(会長からの調査指示と専門部会設置の承認)

○平成24年12月27日 都市計画審議会

○平成25年3月27日 都市計画審議会

### ■ 専門委員会の流れ(想定)

○平成24年11月6日 第1回専門部会

◇検討内容  
(1)大阪都心の中で御堂筋エリアが果たすべき役割(ビジョン等)について  
(2)めざす姿の具体的なイメージと誘導方策について

○平成24年11月28日 第2回専門部会

◇検討内容  
(1) 中間とりまとめ(案)について  
(2) 景観シミュレーション結果の検証等について

中間取りまとめ パブリックコメント

○平成25年2月20日 第3回専門部会

◇検討内容  
(1)全体とりまとめ  
(2)地区計画等の変更に向けた主なポイント

○平成25年3月19日 第4回専門部会

◇検討内容  
(1) 全体とりまとめについて

最終報告

中間報告